

鋤柄農機（株）にて農機具を海外研修生が見学

農機具を手がける鋤柄農機（株）に、4月12日（月）海外で農業の試験・研究・普及に携わる国の担当官が研修に訪れ、最先端の日本の農機具について学ぶとともに工場を見学しました。

これは、発展途上国の社会・経済の発展を支援する国際協力機構（JICA）による平成21年度JICA集団研修「小規模農家用適正農機具開発普及コース」の一環によるもので、同社は約50年にわたりこの活動を支援しています。

当日は、ケニア、アフガニスタン、パプアニューギニアなど10名の研修生

が参加し、畑に自動的に畝を盛り上げる機具や、米の直播ができる機具など稲作や野菜作りに便利な最新の農機具を見学しました。研修生は、熱心に担当者の話に聞き入り、積極的な質問も交わされました。

鋤柄専務は「今後も、積極的に研修生を受け入れ、途上国の農業開発を支援したい。」と意気込みをみせていました。

